

朝日庄内の風

令和6年11月18日 第31号
朝日庄内森林生態系保全センター

CONTENTS

朝日山地森林生態系保護地域の巡視	2
鶴岡市主催のイベントに参加してきました！	5
朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査	6
オオハンゴンソウ駆除作業	7

所長の独り言

朝日庄内森林生態系保全センター所長 十川 尚久

今年度も半年以上が経ちましたが、振り返ると山形県では長い梅雨が続き7月には大雨による災害もあり、雨の日が多かったように感じます。また、今年も暑い日が多く、猛暑の中のオオハンゴンソウの駆除や巡視活動などでは、初めてのセンター業務とは言え熱中症になっているのではないかと思うくらいの汗を流すことが多かったと思います。巡視活動の体験話については、『朝日山地森林生態系保護地域の巡視』をご覧ください。



11月6日の大朝日岳

10月に入ってからは天候の良い日が多くなったようですが、20日には東北の山々の初冠雪もあり、久しぶりに雪に覆われた勇壮な月山を写真に収めました。気温の寒暖差が激しいものの当センター建物には多くのカメムシが訪れるようになりました。東北の各地でも『ツヤアオカメムシ』が大量発生しているとニュースになっていますが、寒さには弱いカメムシなので例年通り寒くなればいなくなると思われます。カメムシが訪れなくなると次は雪が降ってくると思うと、季節が進むのは早いと感じる今日この頃です。



10月21日、田麦俣より撮影した初冠雪の月山と紅葉。手前は湯殿山スキー場。

朝日山地森林生態系保護地域の巡視

大鳥池巡視

8月7日に大鳥池までの巡視と七曲りのショートカット防止のためのロープ張り直しを、職員3名で実施しました。当日はどんよりとした曇り空でしたが、泡滝ダムの登山口から大鳥池を目指して出発しました。32年ぶりの大鳥池ということで、初めは懐かしい思いと久しぶりの登山ということで不安もありながらも足取りは軽かったです。途中からは雨模様になり上下とも雨具を着てからが大変でした。猛暑もありブナ林の中でもサウナの中を歩いている状態で、忘れていたのがつり橋の存在でした。年齢を重ねて高所恐怖症がひどくなっているのです。初めのつり橋は沢の転石を渡りましたが、二つ目のつり橋は本



体力勝負の現場で大活躍の工藤主事

流のため水量も多くつり橋を渡るしかありませんでした。そこで目の前に職員に立ってもらい視界を狭くして、視線を上向きで渡るという技を編み出しました。そこからは必死の思いで七曲りを登り、途中でのロープの張り直しの作業中に休みながらなんとか大鳥池までたどり着きました。久しぶりの大鳥池との対面とこれからの巡視業務に不安になりながらも無事に巡視を終えることができました。



32年ぶりの大鳥池。以東岳は雲の中でした。

御影森山合同パトロール



“技”を駆使して一番初めのつり橋を突破する私
(先頭から二人目)



『上倉山のクロベ』の前にて。右から守屋さん、長南さん、東海林さん、庄内森林管理署と当センター職員。この巨木感、伝わるでしょうか？

9月25日に出羽三山の自然を守る会の長南さん、山形県溪流釣り協議会の東海林さん、環境省羽黒自然保護官事務所の守屋さんほか森林管理署から参加者9名で、朝日町にある御影森山までの合同パトロールを実施しました。朝日鉱泉登山口から出発し、一番初めにあるのが最難関のつり橋です。大鳥池の巡視で編み出した技でなんとかクリアしたものの、二つ目のつり橋がありました。そこからは急な斜面の登りが続きます。先導していただいた長南さんのお陰でなんとか上倉山山頂まではたどり着きました。ところに行く先は霧に覆われており、天候も良くなることはない予報のため、森の巨人たち百選の『上倉山のクロベ』で引き返すことにしました。

パトロールの結果は、登山道への倒木はあったものの植物の盗掘なども見られず、登山者のマナーも良くなっていると思われました。



折損木を処理する長南さん。絶妙なペース配分で先導いただき、ありがとうございました！

清太岩山合同パトロール

10月9日は山形県山岳連盟の堀さん、鶴岡市朝日庁舎の佐藤さん、環境省羽黒自然保護官事務所の守屋さんから参加者6名で清太岩山への合同パトロールを実施しました。日暮沢避難小屋登山口の駐車場には10月の連休前ということもあり、登山者が数名いましたので、『マナーガイド』を配り、森林生態系保護地域での動植物の保護やごみの持ち帰りの協力をお願いしました。清太岩山への登山道も初めから急な登りから始まりますが、つり橋がないのでこれまでよりは気持ちが高らかなのか苦しいながらも少しは順調に登ることができました。山頂までの途中で森林生態系保護地域の保存地区を標示する看板がありましたが、括り付けていたロープが切れており回収することにしました。今回も清太岩山山頂まで来ましたが霧のため、大朝日岳などの稜線も見られず下山することになりましたが、植物の盗掘なども見られず、今年度の合同パトロールは無事に終わることができました。

来シーズンも巡視活動やマナー啓発活動を継続し、朝日山地の生態系の変化をとらえ保全活動を行っていききたいと思います。(十川)



福島から来られた登山客にマナーガイドを配布。
2泊3日で泡滝に下山することでした。



霧の中の山頂にて。前列右から堀さん、守屋さん。
途中で下山された佐藤さんも、お疲れ様でした！



アカイボカサタケ(食毒不明)



クチベニタケ(食毒不明)



ベニナギナタタケ(食用)



ヌメリツバタケモドキ(食用)



傷つけると、
赤い血潮が
滴り落ちます

アカチシオタケ(食毒不明)



傘が悪臭を放ち
ハエなどを止まら
せて、胞子を運
ばせます

スッポンタケ(食用)

パトロール中に見つけたキノコ達。落葉や倒木を分解して栄養分を循環させてくれます。

(上段3種:9月25日、下段3種:10月9日)

鶴岡市主催のイベントに参加してきました！

10月19、20日に鶴岡市小真木原公園にて『庄内森とみどりのフェスティバル』が開催され、当センターも庄内森林管理署と合同でブースを開設しました。葉っぱを使用したしおり作りや、松ぼっくりや木の実を使用した木工クラフト、動植物の写真を使用した缶バッジの作成を行いました。

2日間ともにあいにくの雨ということもあり、昨年と比べると来場者は少ないと感じましたが、どのブースも賑わいを見せていました。「今年も来ました」や完成した作品を見て「綺麗！」など嬉しい声をたくさん聞くことができました。特に私は、缶バッジとしおり作りを主に担当しましたが、この子のしおりのデザインはセンスがいいな、いい感性を持っているなと感心させられました。

11月3日には朝日中央コミュニティセンターにて『あさひ産業文化まつり』が開催され、しおり作り、缶バッジの作成を行いました。

缶バッジを作成していて感じたのは、地域によって動植物への関心度合いが違うということです。庄内森とみどりのフェスティバルでは花などが人気でしたが、あさひ産業文化まつりでは動物が人気でした。憶測ではありますが、動物たちを見かけることが多いため動物への関心が高いのではないかと思います。

私たちのブースでは様々な葉や木の実、動植物の写真などを使用しました。「この実はなんですか？」「この動物はなんだろう」そんな疑問を持っていただく機会になったかと思います。少しでも自然に興味を持ってもらえるように、これからもイベント活動に協力してまいります。（工藤）



朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査

東北森林管理局技術普及課では、平成 15 年度より毎年継続して『朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査（以下、調査）』を発注事業として実施しています。今年は9月 10 日に現場監督で朝日鉱泉から入山すると聞き、当センターも同行して調査状況を確認してきました。その際に撮影した写真とともに、調査内容について簡単にご紹介します。

本調査の主な項目は、大きく分けて以下の3つがあります。

1. 森林植生調査

朝日山地森林生態系保護地域（以下、保護地域）内に5箇所調査区（1区画 100×100m）を設定して、毎年1区画ずつ植生調査を行い5年で一巡させています。樹木の樹高や胸高直径を測定するだけでなく、下層植生の草本類も同定し記録していきます。



調査区内の様子。ここをさらに 20×20m に区分して、計 25 区画の植生データを記録します。



下層植生調査の様子。確認できた種を全て限なく同定して記録していきます。

2. 溪流魚調査

大朝日岳を源とする朝日川の遊漁区と禁漁区にそれぞれ 300m の調査区を設定し、電気ショッカーを用いてイワナを捕獲して生息個体数を推定します。毎年同じ調査区・調査時期・捕獲法でイワナを捕獲して推定個体数を算出し、経年変化を追っています。



水中に電流を流して、軽く麻痺させたイワナを掬い取ります。



捕獲したイワナは個体サイズなどを計測し、標識用のタグをつけてから同じ場所に放流します。

3. 野生動物調査

ニホンジカ（以下、シカ）の鳴声からシカの侵入状況を把握する『アコースティックモニタリング調査』を実施しています。具体的には、保護地域周辺の合計 10 地点に録音機を設置して、10 月

を中心に1地点につき2週間程度音声を録音します。得られた音声データからシカの鳴声を判別し、その鳴声の種類から朝日山地へのシカの侵入状況を把握する、という手法です。録音機の設置・撤収作業だけは当センターで担当しており、今年も10月2日～11月6日の音声データを取得してきました。



集音されやすい高台に録音機を取り付けます。



ツキノワグマに落とされないように、結束ベルトとワイヤーロックで頑丈に固定します。

本調査は5年ごとに調査内容を見直していて、次期(令和11～15年度)の調査に向けて現在検討中です。特に上記3の野生動物調査については、現行ではシカのみの特化した内容になっていますが、現在山形県内ではシカよりむしろイノシシの被害の方が顕在化しています。他にもアライグマやハクビシンといった外来哺乳類の侵入状況も気がりですので、次期調査では上記1・2の調査内容を縮小し、3にセンサーカメラを用いた中・大型哺乳類調査を加えることを検討しているところです。(有本)



9月10日は魚類のスペシャリスト・計画課の安藤主任主事(当時)も同行しました。

調査地までの険しい道中、トンビマイタケの大株を発見!

オオハンゴンソウ駆除作業

今年もオオハンゴンソウを駆除する季節が巡ってきました。ということは、昨年までに全てを駆除しきれていなかったことを意味する訳ですが、昨年の駆除作業を経験している工藤主事によると明らかに株数が減少したとのこと。朝日山地森林生態系保護地域内では平成29年に朝日鉱泉周辺で生育地が見つかり、それ以来毎年駆除作業を継続していますが、この調子で毎年の恒例行事にすれば根絶できるかもしれません。

今年はずまず6月12日に昨年から取りこぼした株の生育状況を確認し、開花前の7月18日に駆除作業、さらに9月5日に再度現地を見回り取りこぼした株を駆除、という段取りで実施しました。現地に何度も足を運んでみて気付きましたが、毎回いかに見落としていたのか、ということをも痛

感しました。日を追うごとに植物体が生長するため見つけやすくなるはありますが、あまり生長を待ち過ぎると、花が咲く前に根株ごと掘り取るという本種の駆除の鉄則が守れなくなります。なかなか難しいところですが、来年度以降もコツコツ地道に駆除作業を継続していきます。(有本)



黙々と掘り取りまくる十川所長



藪の中の小さな株に
目を光らせる工藤主事



根を残さないよう
気をつけます。

ミニコラム なぜオオハンゴンソウを駆除するのか？

近年全国各地でオオハンゴンソウの駆除作業が行われており、各種メディアで紹介されることも増えてきたため、自然保護に関心を寄せる方々には、“在来種を枯らしながら大繁殖する北米原産の特定外来生物”というイメージが浸透していることでしょう。まずはどれほど繁殖力が旺盛なのか、プライベートで撮影してきた写真をご紹介します。①は白神山地の名峰・ニッ森の山麓に位置する集落の休耕田です。世界自然遺産地域の周辺に大群落を形成していますが、全てを駆除することは困難を極めるため、遺産地域により近い生育地から優先して関係機関が駆除作業を進めています。



① 2020.8.8 秋田県八峰町八森



② 2020.7.23 秋田県能代市

②はオオハンゴンソウで吸蜜する準絶滅危惧種のスジグロチャバネセセリです。短期的にはこのチョウにとってプラスに作用するかもしれませんが、長期的に見ればいずれこのチョウの食草が淘汰され、絶滅することは自明でしょう。黄色い大きな花は訪花性昆虫にとっては格好の吸蜜源ですが、一次消費者の餌資源となる在来の草本類を駆逐しながら増殖していくことが大問題なのです。オオハンゴンソウは生態系ピラミッドの底辺に大打撃を与えるため、その地域の生態系全体の崩壊につながりかねません。これこそが我々が猛暑の中、汗水流してオオハンゴンソウを1本1本掘り取って駆除する理由です。(文・撮影：有本 実)



発行：林野庁 東北森林管理局 朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3 TEL: 0235-58-1730

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

